

「この人 85」

田中早苗 81歳 三重県

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

田 中 十年位前から新聞の俳句欄に投句していきまして、たまに採用されるのが嬉しくて俳句を始めました。滑稽俳句は、三重県上野市で八木会長の講演会があり、とても楽しく身体を乗り出して拝聴させていただいたことがきっかけです。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

田 中 このギスギスとした世の中、私の心の中もギスギスすることがありますが、滑稽俳句は、オアシスとなってホッとするものがありますね。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

田 中 テレビで芸人が手を叩いて笑い転げるのは滑稽とは違いますね。心の中から滲み出る愛、哀しみ、喜びをいかにしてユーモアとして表現するか、それが滑稽俳句の醍醐味だと思います。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かった事は？

田 中 人間に丸みが出て来たことですね。腹が立っても、「一寸待て、ここで俳句だったらなんと表現したらいいだろう」と頭を巡らす余裕が出て来ました。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

田 中 その境地にはいと遠し、でございます。

【代表句】

○型の血を吸ひ蛭の○(まる)く落つ
睦むこと忘れ果てたりかまど猫
汗かきて熱き物食む暑き日に
大御所といはれつまりは端居せり
丑の日や桶の鰻のなげき節